



トキ野生復帰・飼育繁殖合同専門家会合 が開催されました

が開催されました

6月2日、環境省の「トキ野生復帰・飼育繁殖合同専門家会合」が佐渡市トキ交流会館で開催され、事故の起きた順化ケージの改修計画、天敵対策、今後の放鳥計画などについて検討が行われました。専門家会合で環境省から報告された内容や委員の意見を踏まえて環境省が決定した内容は次のとおりです。

■順化ケージの改修

テンなどの天敵対策のためにケージ各所のすき間の閉塞、電気柵の設置、テン返しを設置などの侵入防止措置を施す。

■天敵対策

テン、イタチ、タヌキ等は施設周辺での捕獲を進める。カラスは、生息状況を把握し、必要に応じて対策を検討する。

■今後の放鳥計画

順調にいけば7月末までにケージの改修工事を終了し、8月初めから訓練が開始可能となる。専門家の意見を踏まえ、12月までに3か月訓練期間をとれば放鳥を行う。放鳥羽数は、環境省が示した10羽に、専門家の意見を踏まえて今年生まれた0歳のトキを5羽以内に加え、合計で15羽以内となる。第

4回放鳥については、平成23年3月頃に20羽程度を放鳥する計画。放鳥方法は第3回放鳥と同様、野生復帰ステーションの順化ケージを開け、そこから自然に飛び立させる方法を検討している。

■放鳥トキモニタリング状況

○繁殖ペア 佐渡島内において6組のペアが営巣したことが確認された。そのうち4組で抱卵が確認された。

しかし、卵を巣外に捨てたり、巣を放棄したりするなど、今年の繁殖期にヒナは孵化しなかった。

○繁殖ペア以外のトキ 群れを形成して行動しているが、単独行動のトキもいる。島外で確認されているトキは現在2羽。

■飼育下のトキの繁殖状況について

(5月28日現在) 今年生まれのヒナ54羽を加えて、国内におけるトキの飼育羽数は168羽となった。

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室
(トキ政策係) (第2庁舎内)

☎63-3761



世界遺産登録に向けて

新たに国指定となった文化財を紹介します

国史跡

佐渡金山遺跡

あいやま たかち
間ノ山・高任地区

高任地区には、明治時代中期に開坑した高任堅坑や道遊坑があり、かつては高任選鉱場が置かれ、古くから重要な採鉱拠点の一つでした。現存する施設は、昭和13年(1938)以降の大増産体制の際につくられたものが大半ですが、鉱石運搬に使われた道遊坑や高任坑、鉱石粉砕が行われた高任粗砕場と鉱石を一時保管する貯鉱舎、各施設へ電力を供給する中尾変電所などが残り、蓄電池式機関車や機械の整備が行われた機械工場と道遊坑は、現在も実際に内部を見学することができます。

間ノ山地区は明治時代中期に、搗鉱場(鉱石を機械で碎き、薬品を使って金銀をとりだす工場)の建設が



間ノ山アーチ橋と中尾変電所

行われ、濁川には石組みのアーチ橋が架けられました。搗鉱場は昭和18年(1943)に廃止されたため、現在では建物の基礎が残されるのみとなっています。

両地区は、日本人技術者によつて開発が進められた明治時代と、国策による大増産体制が図られた昭和時代の佐渡鉱山を象徴する場所です。



間ノ山搗鉱場

◆市役所世界遺産推進課
(金井コミュニティセンター内)
☎63-5136

世界遺産連続講座(全5回) 入場無料・申込不要

第3回

日時 8月7日(土)

午後1時~3時

会場 アミューズメント佐渡
はまなすホール

○「佐渡寺院建築調査報告
-詳細調査の考え方-」
株式会社グリーンシグマ
技術顧問 山崎完一さん

